

複合助詞「として」の意味・用法再考

- 日本語研究と日本語教育研究からの包括的記述の試みの一事例として -

鈴木智美

東京外国語大学留学生日本語教育センター

tmsuzuki@tufs.ac.jp

1. 複合助詞「として」

名詞に後接する複合助詞「として」、および「として」を含む文を考察の対象とする。複合助詞に関わる先行研究は多くあるが、「として」の分析記述には以下の問題点が残されている。

- ・「として」の意味・用法をすべて網羅的に記述していると考えられるものがない。
- ・「として」一形式の分析がなされ、「として」を用いた「文」の役割の考察が十分ではない。
- ・「として」の文修飾副詞相当句の役割について言及されていない。
- ・日本語教育における「として」の扱い（教授項目・提示順序）まで考察されていない。

本稿における主な主張点は以下のものとなる。

- ・複合助詞「として」を用いた文の意味・用法は、6つのタイプにまとめられる。
- ・「として」には、文修飾副詞相当句の役割を果たす場合がある。
- ・中上級日本語教育では、「として」の基本的用法を順におさえるとともに、目的に応じてそれ以外の用法も適宜扱うことが求められる。文修飾副詞相当句タイプには注意が必要である。

複合助詞「として」は、文中で「Nとして{V/Aい/Aな/Nだ}」の形をとり、名詞を修飾する場合は「としてのN」になる。述語の連用中止法に準ずる「*とし」の形はない。

2. 「として」を含む文の6つのタイプ

2.1 存在・行動のあり方の規定：AはBとして...(V) (A=B)

意味・機能：ある一つの資格・立場・名目「B」を設定して、「A」の存在・行動のあり方を規定する。「Aは、Bという資格・立場・名目で...する。」

- (1) 私は留学生として日本に来た。
- (2) 睡眠障害は、今新たな現代病として広がっている。

この意味・用法では「AはBとしまして...(V)」という形はとりにくい。

述語にくる要素例：生まれる／生きる／暮らす／過ごす／振る舞う／存在する／発足する／現れる／機能する／成立する／通用する／参加する／来る／行く／同行する／加わる／仕える／勤める／活躍する／仕事をする／言う／発言する／意見を述べる／就職する／勤務する／デビューする／出場する／蘇る／残る／取り残される／広がる／溶け込む／映る／誇りを持つ／負い目を背負う／がんばる

2.2 行為・行動・態度のあり方の規定：AはBをCとして...(V) (B=C)

意味・機能：ある一つの資格・立場・役割・名目「C」を設定して、主体「A」の対象「B」に対する行為・行動・態度のあり方を規定し、意味付ける。「Aは、BをCというものと{考えて/位置付けて} ...する。」

(3) 外国語を道具として使いこなす。

(4) ホームステイの家族は、私を家族の一人として温かく迎えてくれた。

この意味・用法も、「AはBをCとしまして...(V)」という形はとりにくい。

述語にくる要素例：とらえる／考える／感じる／受け止める／扱う／理解する／掌握する／区別する／見る／認める／眺める／解釈する／読み取る／選ぶ／数える／挙げる／掲げる／与える／取り上げる／結びつける／狙う／開発する／改良する／しまっておく／保存する／持つて行く／持つて来る／招く／遇する／受け取る／信頼する／利用する／守る／保護する／思い出す／尊重する／獲得する／自覚する／主張する／示す／伝える／話す／再現する／指示する／喜ぶ／恐れる／退ける／楽しむ／悟る／あきらめる／納得する／覚えている／記憶する／思い浮かべる

2.3 ある一つの側面からの価値付け・意味付け：AはBとして...(A=B)

意味・機能：ある一つの観点「B」から、「A」に対し何らかの価値付け・意味付けを行う。観点となるBは、主題Aの持つ、ある一つの側面である。「Aは、Bという側面から考えると...だ。」

(5) 吉野の山は桜の名所として名高い。

(6) 京都は歴史の古い町として有名だ。

(7) 日本は火山と地震の多い国として知られている。

述語部分には、価値付け・意味付けを行う語や、判断・評価を述べる語がくる。「名高い／残念だ／有名だ」などの形容詞、「残念なことだ／恥ずべきことだ／当然のことだ／一流だ」などの(形容詞・形容詞相当表現+)名詞、「知られている／人気がある」などの動詞表現が含まれる。

この意味・用法では、「AはBとしまして...」の形をとることができる。「京都は歴史の古い町としまして、大変有名です」「吉野の山は桜の名所としまして、名高いところとなっております」など、文全体で述べ方の丁寧さの度合いは高くなる。

述語にくる要素例：有名だ／理想的だ／貴重な／不可欠だ／当然だ／適当だ／残念だ／名高い／ちょうどいい／珍しい／珍しくない／ずっと変わらない／ふさわしい／物足りない／恥ずかしい／典型的な...だ／当然のことだ／残念なことだ／知られている／人気がある／好かれている／嫌われている／怖がられている／恐れられている／見慣れている／記憶に残っている

2.4 価値付け・意味付けの観点を示す文修飾副詞相当句：AはBとして...(A B)

意味・機能：ある一つの観点「B」から、「A」に対し何らかの価値付け・意味付けを行う。B本来のあるべき姿、あるはずの姿に照らして、Aを評価する。「Aは、Bという観点から考えると、...だと言える。」 「～として」が文修飾副詞相当句の役割を果たす。

(8) 努力し続けることは人間として当然のことだ。

(9) このような失敗は、プロとして{恥ずかしい/失格だ/許されない}。

「B」は「A」を評価する際の一つの観点だが、2.3のタイプとは異なり「A B」である。「～として」は、文全体に対する評価の観点を導入する文修飾副詞相当句の役割を果たしている。話し手が評価の観点となる「B」を本来どのようなものであるととらえるか、そのとらえ方が判断・評価の基盤として働く。(8)では、「人間とは本来努力するものだ」、(9)では「プロなら、このような失敗はしないものだ/してはならない」という意識が背景にある。

評価の観点「B」には、規範的な役割判断・性格付けの可能な「人、親、母、女性、プロ、専門家、教師、チーム、男、大人、社会人」などの語が立つ。述語部分には、2.3のタイプと同様、価値付け・意味付けを行ったり、判断・評価を述べたりする語がくる。

この場合も「AはBとしまして...」の形をとることができる。「国際社会での著名人のそのような振る舞いにつきましては、同じ日本人としまして、まことに恥ずかしい限りです」「政府の少子化対策について考えますと、当該者の女性の一人としまして、十分であるとは思えません」など、述べ方の丁寧さの度合いは文全体で高い。

2.5 行為・行動の規定・意味付け：AはBとして...(V) (B = [V]という行為)

意味・機能：ある一つの観点「B」から、主体「A」の[V]という行為・行動を規定し、意味付ける。「Aは、Bという意味で、...する/Aが...すること、それは即ちBである。」

(10) 彼は仕事として雑誌に日本語の文章を書いている。

「仕事 = 雑誌に日本語の文章を書くこと」である。また「当社では、セキュリティ対策としまして、情報へのアクセス履歴を厳しく管理しております」「我が国では、科学技術推進の一環としまして、今後宇宙開発事業に力を入れることを決定いたしました」など、「AはBとしまして...」の形も可能である。観点「B」には、「仕事、対策、方針、義務、補償」などの名詞がくる。

2.6 行為・行動の主体：Aとして...(V)

意味・機能：ある一つの資格・立場・名目「A」を示して、主体「A」の行為・行動を規定し、意味付ける。Aは、行為・行動の「主体」であると同時に、その主体の資格・立場・名目を表す。「Aは、Aという資格・立場・名目で...する。」

(11) 政府として、早急に対策を考えたい。

「政府」は「主体」であると同時に、その「資格・立場・名目」も表す。「政府は、政府という資格・立場において、対策を考える」と言える。行為・行動の主体であると同時に、資格・立場・名目なども表すことのできる「国、政府、大使館、県、委員会、協会」などの名詞が立つ。

「Aとしまして...」という形は不可能ではない。しかし、「日本政府としましては、早急に結

論を出したいと思います」「日本大使館としましては、今後当局を通じて情報収集を行っていくことにしております」のように、「としましては」の形をとるのが普通である。

3. 日本語教育の観点からの注意点

中上級の日本語教育において、6つのタイプの提示順序は以下になるだろう。

基本的用法(中級前期)		
a. 動詞文タイプ	・私は留学生 <u>として</u> 日本に来た。	(2.1)
	・日本人は米を主食 <u>として</u> 食べている。	(2.2)
b. 判断・評価文タイプ	・京都市は歴史の古い <u>町として</u> 有名だ。	(2.3)
特殊な用法(中級後期)	・努力するのは人間 <u>として</u> 当然のことだ。	(2.4)
応用事項(上級～)	・会員は義務 <u>として</u> 会費を納めなければならない。(2.5)	
	・政府 <u>として</u> 、対策を考えたい。	(2.6)

基本的用法の判断・評価文タイプ(b) (「困っている人を助けることは、人の行いとして当然のことだ」と、文修飾副詞相当句タイプ() (「困っている人を助けることは、人として当然のことだ」)を混同しないよう注意が必要である。

判断・評価文タイプ(b)の述語にも注意が必要である。

(12) a. 東京は日本の首都として有名だ。

b. ?東京は日本の首都として人口が多い。

「人口が多い」ことは「東京」に対する評価ではなく、その“属性”を表すため不適切となる。

日本語教育の観点からは、文法的・意味的に基本と考えられる用法をそのまま基本的な教授項目とするだけでなく、教育の目的にかなった扱いを考え、シラバスの吟味・再構築を行っていくことが課題になると思われる。

参考文献

佐藤尚子・小高 愛・白鳥智美・宮川和子・遠藤真由美(2001)「社会科教科書における後置詞について」

『千葉大留学生センター紀要』7 pp.43-88

永野 賢(1953)「表現文法の問題 複合辞の認定について」『金田一博士古稀記念 言語・民俗論叢』三省堂 pp.95-120

馬 小兵(1997)「複合助詞『として』の諸用法」『日本語と日本文学』第24号 筑波大学国語国文学会 pp.左23-31

森田富美子(1982)「『として』と『～にとって』」『紀要』第6号 国際学友会日本語学校 pp.124-127

森田良行・松木正恵(1989)『日本語表現文型』(NAFL 選書5)アルク

山崎 誠・藤田保幸(2001)『現代複合辞用例集』国立国語研究所